

です。従来の日本林業は生長した量だけを、而も林道のあるところからだけ伐採して間に合わせていました。然しこれでは木材の需要が著しく増えた今日、供給に追いつきません。ではどうすれば良いか。そこで昭和33年に林力増殖計画が出来、それを機会に木材業界が転換しました。つまり山を皆伐して、その跡に生長率の高い木を植えると言うのです。これに対して反対が occurred。一つは学者グループで、従来の学説では半分だけ伐り、二次林が生長する余地を残すべしと教えていました。もう一つは業界で、以前は成熟した木材だけを使用していたので、未熟の木材が混じつては困ると言う反対でした。然し林野は踏み切りました。それから5年、低地で風通しの悪い処では新方式が成功し、山の中段より上は学者グループの説の様に不成功に終わりました。現在では両方を採用しています。一方業界としては、未熟材(低質材)を生かす方途が研究されました。結局未熟材を中に入れ、表面を成熟材(良質材)で薄く覆う方法が成功しました。膨張と収縮の関係も良くて狂いが少く、美しさの点でも優れており、非常に広範囲に使われる様になりました。このことは、木材業界が逆境に立たされたが為に、むしろ成功したと言えますよう

②パンの話

木屋守迪君

日本を含む東南アジアでは米が主食で、欧米ではパンが主食です。米食の国では副食物が粗末になり、逆にパン食の国ではバターその他栄養物をよくとると言う大きな違いがあります。ノーベル賞受賞者はパン食の国から多数出ており、又大脳生理学の権威、慶応の林教授は、パン食の方の頭脳が勝れていると言っています。人類の主食の文化的発展道程を形態的に見ると四つに分類されます。重湯、粥、平焼及びパンの形態です。パンが世界で最初につくられたのは古代エジプトで、日本に伝えられたのは400年前ポルトガル人が欵砲を伝えた時です。その後鎖国令が布かれた為パン食が跡絶えました。パンを始めにつくつた日本人は伊豆にら山の江川太郎左工門で、1913年4月12日でした。その後各藩が挙つて研究しましたが、軍事機密的なものであつたのでうまくゆかず普及しませんでした。パン屋としては明治3年の木村屋が元祖で、2年後にアンパンがつくられています。パン食が真剣にとりあげられたのは大正年間の富山の米騒動の時からです。あまり伸びませんでした。戦後の食糧難により、今度は本確的にパン食が発展し、現在パン工場は8017あるそうです。パンは近代生活に於いて、栄養があり、健康をつくり、頭脳を良くする優秀な食物であると言うのが結論であります。

◆出席報告

会員数 30名 出席 26名 他クラブ出席 2名 出席合計 28名 (出席率 93.33%)

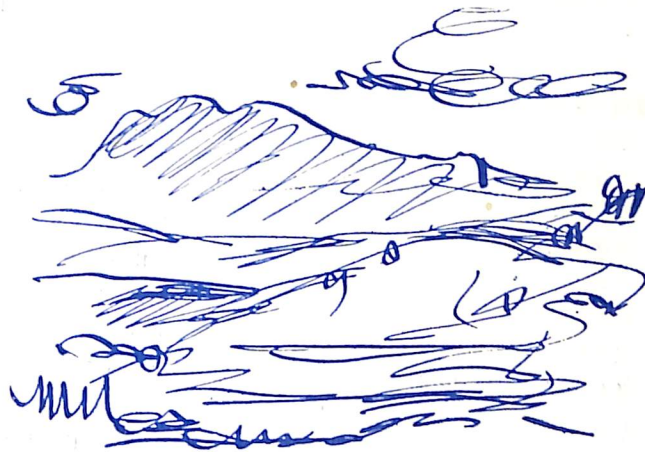
今回の卓話 今宮信雄君 門田豊君

次回例会日 8月12日



The Weekly Report of Hakodate North R. C.

このマークを真に光らせよう



三森山

深瀬会員画

通算第8号
1964-8-5
函館北ロータリークラブ

第8回例会

例会場 明治生命館
例会日 毎週水曜日
12.30~13.30

- ◆斉唱 「君が代」 「それでこそロータリー」
- ◆司会 新 会長
- ◆ゲスト ガートルード・H・セルコウ女史(ニューヨーク市ウオーレン中学校長)
ヘンリー・B・セルコウ博士(弁護士 セルコウ女史の夫君)
- ◆ピジター 川守田完三君 長谷川権九郎君 原忠雄君 横田豊雄君 瀬川祐三君
氏家義也君 川端久雄君 渡辺音次郎君 (以上函館R.C.)
富田恭君 堀田政治郎君 安藤定三君 国田芳郎君 山内亮一君
日下部一博君 本間定次郎君 高野武久君 薬袋省吾君 (以上函館東R.C.)

◆会長挨拶

今日は珍しいニューヨークよりのお客様セルコウ女史のお話を聞くことになりました。講話のあとで質疑応答をお願い致します。

◆幹事報告

- ①富田特別代表より東クラブよりの地区分割のお知らせがあります。
- ②チャーターナイト準備と、月始めであるので例会後理事会があります。

◆富田特別代表の報告

7月17日に東R.C.よりの地区分割が承認されたとの知らせがありました。寿原ガバナールから、おそくとも今月中に認証状が届けられることになると思います。準備をお願い致します。

◆講師紹介

①新 会長

昨夜日米文化センターで、ニューヨーク市の黒人問題で女史のお話を聞きましたが、興味深く深い内容で感銘を深くしました。「アメリカの黒人問題については、1954年に人種差別が撤廃され、ケネディによつてこれが強化されたと感じているが、アメリカのドライバーに対する禁酒令の如くに、完全にはゆかないのではないか？」との私の質問に対し、女史は「私は予言者ではないから予言は出来ないが、20年位の間に相当良く解決されるであろう。各地で黒白相混ぜあつてやつていて、人種差別撤廃の理想に向つて進んでいるので、新聞等で報じられる様なそれ程恐ろしい状態ではない」と答えられました。アメリカの校長先生として素晴らしいお話だと感じました。講話のあと皆さんから大いに質問されて、今日の卓話の意義を深めてほしいと思います。

②渡辺音次郎君（函館日米文化センター）

学校の教員生活30年、うち15年が校長職であります。アメリカ政府より日本の教育事情視察に派遣され、日程を終えて来函されました。特に大切なことは、ニューヨーク市で黒人街（貧民窟）の学校も、又富裕階級の学校の校長先生も経験されたことで、専門も教育学、社会学等広い分野にわたり、深い見識と豊富な経験をお持ちの方です。

◆スピーチ

ガートルード・H.セルコウ女史のお話

通訳 日米文化センター 松居司氏

日本語を8ヶ月勉強しましたが、拙い日本語では時間が無駄になりますので、英語でお話します。本日ここにお招きをうけ、ハワイでの経験をお話する機会を得ましたことを感謝します。

丁度1年前、自分を含めて15人の先生方とハワイ大学で勉強することになりました。アジアからも15人参加されました。この30人の先生方は、アメリカの15人は日本事情（特に日本の文学、歴史等）を、アジアの15人はアメリカ事情（アメリカの歴史等）を勉強しました。ハワイ大学での勉強が済んだ後、アジアの15人はアメリカに、アメリカの15人はアジアに夫々研修旅行に出たのですが、既に帰国されたか或は帰国途上にあると思います。

この30人の先生はアメリカ政府から奨学金を貰っております。どの先生も優秀でした。本当に良い先生が、良い教育がわかるのだと思います。

私はこの6週間、日本のあらゆる種類の学校を訪問し、優秀な先生が沢山おられることを知り、嬉しく思いました。青森のある先生は特に優秀であつたので、1965年にはハワイ、アメリカに招待出来ると信じています。

私達が最も興味を持っているのは、世界の事情について、日本ではどの様に教えられているかと言うことであります。私達は出来るだけ沢山の事を見ようと思いました。都会、農村、漁村、工場、炭坑地帯、学校、県庁、新聞社等々……方々を訪ね、且つ話し合い、インタビューもしました。こうして正しい日本の姿を見ることが出来、又先生として正しい日本の姿を帰つてからアメリカに伝えることが出来る、これは全く素晴らしいことだと思います。今迄色々な人に会いましたが、私の見聞によれば、型は色々あつても、何て日本もアメリカも同じであるのだろう、と言うことでした。

特にこの様な国際理解と言うことで、函館では日米文化センターの渡辺さんが力を入れておられることに深く感謝します。札幌の日米文化センターはアメリカ人が担当しておられますが、ある面では函館市の様に日本人が館長さんである方が、相互理解を深める点で良いのではないかと思います。ロータリークラブは、世界のまとまりと発展に大きく寄与するでしょう。結論としてアメリカ人が皆さんと、又逆に皆さんがアメリカに來られて色々話しをされること、これが相互の和解を深める道であると信じます。

◆質疑応答

〔問〕 富田恭君

日教組のあり方について、日本の親達は心配しております。日教組についてどうお感じになりましたか。又アメリカの事情は如何ですか。

〔答〕 セルコウ女史

アメリカの教員組合は、教育と生活改善のためにのみ力が注がれています。日教組はこの他に政治的な配慮があるようですが、アメリカにはそれがありません。6週間の視察でしかありませんが、日教組は政治団体に関係があると感じました。

2年前ニューヨーク市の教員組合がストライキをやり、そのため学校が一日閉鎖されました。私の学校では88人の先生（生徒数1800人）の中で18人が参加しました。ニューヨーク市教委は、一晩かゝつて教員組合と協議し、次の日ストライキを中止しました。ストライキの理由は、研究の時間がほしい、担当児童を少なくしたい、教育の為の施設、資材がほしい等で、昇給は最後の目的でした。このストライキによつて或程度の目的が果されたのですが、ニューヨーク市でも教員組合の対処方法について苦慮しております。

〔問〕 深瀬鴻一郎君

日本の文化は古い独特のものです。これを改善し高めるにはどうすればよろしいか。

〔答〕 セルコウ女史

今朝も日米文化センターで同様の質問を受けました。私はアメリカは175才である、従

つて文化も若過ぎると答えました、アメリカは今までに、イギリスを始め、ドイツ、フランス、更には中国に至るまで、多くの国から文化を輸入し、模倣し、そして自分のものにして来ました。結局良いものを寄せ集めて、最良のものを作り上げるように心掛けることが大切だと思います。

〔問〕 遠藤尚義君

日本の教育は、下の者を引きあげ、全体のレベルを高める方針でやっておりますが、アメリカでは所謂天才教育をやっていますか。

〔答〕 セルコウ女史

素晴らしい質問です。一番嫌なのは天才教育です、アメリカでも下の者を引きあげる様にしています。子供の才能は夫々異なりますから能力に応じた教育が必要です。フランス、ソビエト等は天才教育をやっている様です。アメリカでは18才まで義務教育ですが、才能に応じて大学に進学出来るように、沢山の奨学資金があります。天才教育で心配されることは、もし下の層にいれば見つけ出すことはむづかしいからです。アメリカが天才教育をやっていたとしたら、リンカーンの如き偉人は出なかつたでしょう。

ロータリー用語とその解説 (その2)

フォーラム

討論会のことである。クラブ・フォーラム、インターシティー・フォーラム(数クラブが集まる)、インターンティー・ゼネラルフォーラム(フォーラム・リーダーが司会する)等がある。

チャーター

加盟認証状

バナー

クラブを表わした旗

◆出席報告

会員数 30名 出席 25名 他クラブ出席 4名 合計 29名 (出席率96.7%)

次回例会日 8月19日



The Weekly Report of Hakodate North R. C.

このマークを真に光らせよう



神山春景

深瀬会員画

通算 第9号
1964-8-12
函館北ロータリークラブ

第9回例会

例会場 明治生命館
例会日 毎週水曜日
12:30~13:30

- ◆斉 唱 《奉仕の理想》
- ◆司 会 新 会長
- ◆ビ ジ タ ー 浜下改三君 野口幸治君 小寺重一君 菅原紀美男君 猪原彰君
末松和彦君 長谷川権九郎君 萩野佐太郎君 氏家義也君 村上正夫君
(以上函館R.C.)
富田恭君 菅泉君 外崎泰吾君 坂野鉄男君 高野武久君 戸田国雄君
大賀親乙君 瀬下雅也君 小林一郎君 表弘市君 山本他喜男君
(以上函館東R.C.)

◆会長挨拶

- ①7月15日の例会に招待した米国のテレルカウンティ号のアレン艦長、ステーヴリイ副長から8月3日付で重いお礼状が会長あてにまいりました。
- ②8月11日午後6時から9時まで第1回クラブアツセンブリーを《館》で開きましたが16名が出席されました。岩見沢市の地区研究会に出席された水上、杉本、山内、遠藤の四氏より、クラブの手落でクリップシートを配布しなかつたにも拘らず、フレツシユな頭で、午前の講演会、午後のデスカッションの模様を見識高い意見を加えられた立派な内容の報告を受けました。またこのあと各委員会の経過報告と今後の抱負と方針に